

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	川崎市文化財団グループ（公益財団法人川崎市文化財団）	
施 設 名	川崎市アートセンター	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	14,507	（千円）
公 演 事 業	10,036	（千円）
人 材 養 成 事 業	3,507	（千円）
普 及 啓 発 事 業	964	（千円）

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	しんゆりシアター「三人姉妹」	平成30年10月13～21日	作：チーホフ、演出：五戸真理枝／出演：中地美佐子、高橋紀恵、石橋徹郎、安藤みどり 他	目標値	1,248
		川崎市アートセンター		実績値	1,022
2	文学座こどもげき「三匹のこぶた～みんなでいっしょに劇づくり～」	平成30年4月29、30日	演出：高橋正徳、美術：乗峯雅寛／出演：鈴木亜希子、藤川三郎、頼経明子、斉藤祐一 他	目標値	468
		川崎市アートセンター		実績値	400
3	デフ・パペットシアターひとみ「森と夜と世界の果てへの旅」	平成30年5月5、6日	原作：エイモス・チェツオーラ、演出：くすのき燕／出演：榎本トオル、末永快 他	目標値	312
		川崎市アートセンター		実績値	298
4	青年座「江戸怪奇譚ームカサリ」	平成30年5月12、13日	原作：藤沢文翁、脚色・演出：金澤菜乃英／出演：山路和弘	目標値	312
		川崎市アートセンター		実績値	377
5	親子で楽しむ夏時間2018「ハンドメイド」	平成30年7月30、31日	出演：サントペテルスブルグ・プラスチック・ハンド・シアター”ハンドメイド”	目標値	312
		川崎市アートセンター		実績値	234
6	しんゆり寄席	平成30年6月～平成31年3月	世話人：初音家左橋、桂米多朗を中心に各回真打2名、二つ目1名、前座1名が出演	目標値	1,560
		川崎市アートセンター		実績値	1,347
7	しんゆりジャズスクエア	平成30年6月～平成31年3月	田辺充邦、キャロル山崎、ヒロ川島、守屋純子 他（各回、テーマごとにキャスティング）	目標値	780
		川崎市アートセンター		実績値	751
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,992
				実績値	4,429

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	しんゆりシアター劇団わが町第8回公演「みすゞ凜々」	平成31年2月9～11日	脚本・演出：ふじたあさや、音楽：吉岡しげみ、美術：池田ともゆき／出演：劇団わが町劇団員	目標値	780
		川崎市アートセンター		実績値	930
2	しんゆりシアター劇団わが町試演会「芝居をつくらう～いそっぷ詩より～」	平成30年4月8日～6月17日	原作：谷川俊太郎、監修：ふじたあさや、大谷賢治郎／WS講師・演出／原田亮、森山蓉子／参加者：劇団わが町有志	目標値	45
		川崎市アートセンター		実績値	30
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	825
				実績値	960

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	夏休みワークショップ フェスティバル2018	平成30年8月1～5日、9～ 12日	<ミュージカルワークショップ> 福島桂子、小西麻美 他<ことば のワークショップ>ふじたあさ や、原田亮 他	目標値	80
		川崎市アートセンター		実績値	90
2	コミュニケーションアウト リーチ	平成30年4月28日ほか	講師：大谷賢治郎、アシスタント： 大谷恵理子、原田亮、森山蓉子、 小山雲母	目標値	100
		川崎市アートセンター		実績値	62
3	小劇場×映像館コラボ レーション企画vol.1 「光とあそぼう！-江戸 写し絵の世界-」	平成30年12月1、2日	出演、ワークショップ講師：江戸 写し絵社中	目標値	312
		川崎市アートセンター		実績値	140
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	492
				実績値	292

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

<ミッション>

「演劇やミュージカル等舞台芸術作品の創造発信をととして、人々の生きていく様や地域社会の基本的な価値観を表現していくとともに、子どもたちや高齢者、演劇を担う人材の発掘・育成に努め、アートセンターを拠点に地域の芸術・文化資源を活用し、質の高い事業を展開していく。」

<地域の特性>

- ①地元・川崎市麻生区が進める「芸術文化のまちづくり」構想の拠点施設となっています。
- ②川崎市全7区でも高齢者の割合が最も高い麻生区では、①により芸術文化への興味の高い方々が多い。さらに10代以下の児童青少年も増加傾向にあるため、その世代をも含めたニーズに応えたい。
- ③近隣には川崎市アートセンターの指定管理グループの一員でもある昭和音楽大学、日本映画大学の芸術系大学のみならず、玉川大学、和光大学など10大学との連携をしています。

以上を踏まえ主催事業を展開しています。

●幅広いジャンルに亘るラインナップの鑑賞機会の提供により地域で舞台芸術に出会える劇場

芸術性の高い舞台芸術（三人姉妹、江戸怪奇譚等）

児童青少年、家族で楽しめる企画（三匹のこぶた、森と夜と世界の果てへの旅、ハンドメイド、みずゞ凜々、光とあそぼう）

高齢者等地域住民が楽しめる企画（しんゆり寄席、しんゆりジャズスクエア）

●観客として以外での舞台芸術との様々な出会いの場となる劇場

参加事業（ワークショップ、劇団わが町、アウトリーチ）

市民ボランティアスタッフとの連携（各事業の当日の運営）。

●地域とのつながり：芸術文化の創造発信拠点としての劇場

芸術文化団体、芸術祭との協力（施設提供等）

芸術系大学の人材活用（WSの講師、アシスタント、卒業生のキャストイング）

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

●地域のまちづくりとアートセンター

川崎市麻生区が進める「芸術文化のまちづくり」構想の中で生まれた川崎市アートセンターは、地域のニーズを踏まえ、上記のミッションを掲げ、事業を展開しています。2012年よりスタートした「市民劇団・劇団わが町」、プロによる演劇公演などを継続しているが、観客動員数については好調なものもあるが、総じて決して順調に伸びているわけではありません。

変化していく地域のニーズをいかにつかむかだけでなく、さらに新しい価値観を生み出す企画を提案するという挑戦も続けていきたいと考えます。

●小劇場の魅力と問題点

200席弱のキャパシティの小劇場は演劇に適しており、芸術性の面では魅力のある空間ですが、収支を考えた場合は非常に厳しいのが現状です。支出を抑えつつ、いかに芸術性を維持するか、プロのスタッフの力を借り、アイデアをもって企画していくことが重要な課題です。

●芸術性の高い事業の継続

親子で楽しむ夏時間2018「ハンドメイド」では海外児童児童劇という普段なかなか観る機会のない舞台芸術の鑑賞機会を提供することができました。多くの劇場と連携し招へいするものの、やはり経費が掛かる事業です。

助成対象となったことで、チケット料金を抑え、広報にも力を入れることができました。来年度はさらに公演日程の工夫をし、さらに貴重な鑑賞機会を継続したいと思えます。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

<公演事業>

●観客動員数の増加を目指す。

→年間入場者数：平成24年度（第二期指定管理初年） 3086名→平成30年度 5350名

1ステージあたりの平均入場者数：平成24年度 134名→平成30年度 約149名

今後も多くの集客を目指したいと考えます。

●芸術文化と地域住民の出会いの場として、豊かな人間性を育み地域社会づくりにつなげる。

→落語から児童劇まで幅広いジャンルのラインナップにより、観客への新たな価値観の提供、舞台芸術への理解を深める機会を提供することができました。

●公演事業、人材養成事業、普及啓発事業のなかでの人の流れをつくることで<劇場の観客>づくりを行なう。

→一度の出会いから次につなげる

「ワークショップ参加者がさらに日常的に演劇に関わりたくなり、劇団わが町に入団する」など、一つの出会いから劇場の活動に注目、興味をひろげる地域住民が増えることは、当館にとっては大きな成果といえます。

→アンケートによる市民の声の集約

全事業でおこなっているアンケート調査によると、事業内容について「非常に良かった、良かった」と答えた人が平均98.4%でした。また、来場した演目以外で主催事業を観ている観客は約52.8%と様々な劇場の事業に興味をもつ観客がいることもわかりました。

<人材養成事業>

●継続的な芸術活動、劇団という集団の成熟から何を学ぶか。

→「市民劇団・劇団わが町」は、活動開始より幅広い年代が参加する集団のなかで公演実現という1つの目標に向かう事で、相互理解、コミュニケーションについての学びを積み重ねています。作品創りの点でも、戯曲への理解度、スタッフワークへの積極的な参加などに活動の充実度が年を重ねるごとに増していると考えます。

<普及啓発>

●舞台芸術を通して、相互理解、コミュニケーション、他者への信頼を学び、深める。

→劇場での鑑賞機会、ワークショップなどの参加事業などの「劇場での舞台芸術との出会い」だけでなく、今年度から開始したアウトリーチ活動でこの出会いの機会を広げることができました。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<事業期間が適切で当初の計画通りに進んだか>

●事業全体として

申請内容に変更なく、当初の計画通りに進めることができました。

<事業費が適切で当初の計画通りに進んだか>

●事業全体として

市民に舞台芸術との出会いの場を提供し、新たな価値観を示すために、芸術性の高い舞台芸術の鑑賞機会と、参加型事業の開催を行っています。助成金の有無にかかわらず、継続してきた主催事業ですが、今年度については助成対象となったことで、事業費についても全体として適切に進めることができました。ただ、個々の事業のなかでの課題はあり、ブラッシュアップし展開するために、PDCAサイクルに沿って、経験値を無駄にしないように事業展開していきたいと考えます。

●劇団わが町「みすゞ凜々」

チケット売り上げが伸びただけでなく、舞台費支出を抑えることができたので、結果的に自己負担額を大きく抑えることができました。

●親子で楽しむ夏時間2018「ハンドメイド」

ロシアのカンパニーを複数の劇場で招へいするという企画に参加。渡航費などで経費がかさんでしまいました。複数の劇場で企画しないと実現は難しい鑑賞機会を提供することはできたが、チケット単価の安い児童青少年向けの短期間の公演では収支バランスが厳しいのが現状です。このような貴重な鑑賞機会は当館の事業にとっては重要と考えますが、どのようにすれば継続できるのか、課題です。

●「三人姉妹」

チケット収入が伸び悩むなか、稽古中にすでに進行している舞台プランの支出をどこまでコントロールできるか収支バランスを見定めることが大きな課題でした。

しかし、演出家をはじめとするプランナーのアイデアにより、結果的に芸術的評価の高い上演となり、地域のお客様だけでなく、広く演劇ファンにも評判となり券売が最後まで伸びました。また、演出・五戸氏もその演出が話題となり、演劇界でも高く評価されました。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】

<ミッション>※妥当性自己評価を参照のこと。

●主催事業のラインナップのひろがり

平成30年度より主催事業に、「こちらから舞台芸術の出会いの機会を届けに行く」アウトリーチ活動、映画館との複合施設である当館の特徴を活用した映像館とのコラボレーション企画を増やすことができました。新しい価値観の提供による、地域社会づくりに寄与することを目的とした当館にとって、このひろがりには大きな進化と言えます。

●「市民劇団・劇団わが町」へのプロスタッフ参加

「劇団わが町」の事業、長期的な活動については劇団わが町芸術監督：ふじたあさや、芸術監督代行：大谷賢治郎、劇団わが町アドバイザー：酒井誠（元小劇場ディレクター）らと制作スタッフが連携し、企画立案、また定期的に公募による劇団員オーディションを実施しています。劇団の長期的な成長を含め、継続性をもった活動をするためには必要な体制と考えます。

●当館の制作体制

劇場運営は藤田小劇場ディレクターを中心に行っています。「劇団わが町」では上記のスタッフの元、活動していますが、とくに創造活動だけでなく、幅広く活躍される、上記彼らは国際児童青少年舞台芸術協会（アシテジ）、日本児童・青少年演劇劇団協同組合、日本劇作家協会などでの活動、公文協アドバイザーなど演劇界での活動が多岐にわたることから、多くのアドバイスをいただき、劇場全体の運営、企画の参考としています。

●劇場の特質と技術協力

200席弱の客席数による小劇場は音響的にも演劇上演にふさわしい空間です。

プロによる公演だけでなく、地域住民と劇場の接点として貸館での利用でも活用してもらえよう、劇場技術スタッフによる技術協力を積極的に行なっています。これも日常的に舞台芸術を愛好する地域住民のみならず、誰にでも開かれた劇場として行うべきことと考えます。

【視点2】

●ベテランと若い人材の融合、創造進歩や舞台創造

「三人姉妹」演出を依頼した五戸真理枝（文学座）、出演の土井真波、長本比呂士（新国立劇場演劇養成所卒業生）など、若い舞台人を多くの事業へ登用しました。

さらに当館を開館当初から知る地元在住で、日本を代表する劇作・演出家であるふじたあさや（アシテジ日本センター会長、川崎市文化賞受賞）、大谷賢治郎（company ma / アシテジ世界理事）を中心に進める「劇団わが町」活動も含めて、俳優、スタッフなど幅広い年代の舞台人が関わることで生まれる化学変化は主催事業の充実のみならず、事業に新しい風をいれています。

●「劇団わが町」の活動のひろがり

現在11歳から78歳までが所属する「劇団わが町」は本公演、ワークショップと試演会を行ない、さらにアウトリーチ活動へ参加しました。これは、劇団員のスキルアップを目指すだけでなく、観客育成にもつながります。

地域で演劇活動をする劇団員（市民）が自らの経験を活かして地元での活動に参加すること、また幅広い事業への参加は、当館の事業の柱である「劇団わが町」の成長につながると考えます。創作活動の場であるだけでなく、家族、職場・学校以外の「第三の居場所」としての存在意義も大きくなっています。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

●ワークショップ、劇団わが町の年齢制限

年齢制限を設けないことで短期間の事業でも世代を超えた交流が行われています。家族や年齢で区切られている学校生活が生活の中心となっている現代で、かつてのご近所付き合いのような年齢関係ない中で、相互理解、助けあいができる人間関係を目指しています。

事業の内容に関わらず、誰とどのような時間を過ごすか？という点において、貴重な機会となっています。

●障がい者対応、事業について

「障がいのあるなしに関わらずアート活動が楽しめる環境づくり」であるパラムーブメント、パラアートは川崎市が進める重要な取組です。当館でもノンバーバル（言葉にたよらない）な表現の舞台作品、インクルーシブ（様々な障がいや個性を持った人々がともに楽しむ）な企画に目を向けて事業計画を進めていきます。

また運営面でも、客席内の車いすスペースの拡大、落語・ジャズコンサートでの障がい者割引チケットを販売開始、ご好評いただいています。

●内外部との連携、情報共有

年2回開催される運営協議会では、地域住民の代表として皆様から様々な意見を伺い、運営に取り入れ、反映させています。

また、指定管理グループ内では、設置者である川崎市含めた連絡調整会議（月1回）を開催、年二回の代表者会議、年数回の事務局長会議での情報の共有を行っています。

●顧客アンケート

公演来場者のアンケート、併設している映像館の映画自由ノート、ロビーに設置している施設の意見箱などにより広く利用者の意見を吸い上げる体制をとっています。

●外部評価（指定管理評価シート）

川崎市による指定管理者に対する年度評価では、「劇団わが町」、ワークショップなど市民参加型事業の高い満足度、公演事業への満足度について評価をいただきました。

※平成30年度評価シートはまだ出ていないので平成29年度分を添付いたしました。

●広報活動

タウン誌を中心に情報発信。しかし、より多くの集客や劇場の周知を目指すためには、川崎市内だけでなく、舞台愛好家に届くように都内の劇場でのチラシ配布など、ターゲットを分析し丁寧な広報活動を進めたいと考えます。

また、「劇団わが町」は劇団内に独自の広報チームをもち、街頭チラシ配布、SNSでの情報発信を積極的にを行っています。公演を重ねるごとに、公演成功へ意識をもって臨むようになってきました。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

●アートボランティアの運営協力

当初は川崎・しんゆり芸術祭での活動のために立ち上げられたアートボランティアではありますが、現在では年間を通して、主催事業の運営に協力を依頼し、ほとんどの事業でお客様対応スタッフとして参加を依頼しています。

アートボランティアは、まさに舞台芸術に興味をもつ地域住民そのものであり、活動を通して事業だけでなく当館自体への理解も深まっています。乳幼児対象の児童劇、デフの劇団など公演の客層に合わせて、育児経験者、介護経験者、手話ができる方などが運営に参加。お客様のニーズに対応しています。

●インターンシップの受け入れ

近隣の大学からのインターンシップについては積極的に受け入れたいと考えます。平成31年度はアートマネジメント学科の学生を受け入れますが、当館では舞台スタッフ業務などでも受け入れ可能であることから今後も対応していきたいと考えます。

●施設内の組織見直し

当指定管理グループは複数団体で構成されていますが、その中で長期的に同じ物差しをもち、施設運営・事業展開をしていくためには、PDCAサイクルを軸としたなかでの積極的な現場の情報共有や意見交換、ミッションの共有を深めていきたいと考えます。

●資金調達について

チケット収入以外に広告協賛などによって収入増加の方策を考えるなど自助努力の強化を図りたい。